□□□□□□□□□□□□□□■■■■■■■■■■■■■■□□□□□□□□□□□□□

平成 19 年
メールマガジン　　『日本人の９８％は知らないタイ株投資！』
Home Page はこちら　「タイ株(アジア株)と海外投資」　http://thaikabu.net/
Blog　はこちら　　「アジア株(タイ株)と海外投資」　http://toatoa.jugem.jp/

発行者　TOSHIYUKI　ABE　(タイ在住)

□□□□□□□□□□□□□□■■■■■■■■■■■■■■□□□□□□□□□□□□□

タイ株投資情報　第 13 号

今回からご登録開始していただいた読者のみなさま。
ご登録有難うございます。

タイ株(アジア株)と海外投資のブログを
管理/運営/書き込みをしている ABE と申します。
２００４年にタイで働き始めてから同時にタイ株投資を実践しています。

無事バンコクへ戻って参りました。
非常に多くの方にお世話になった 10 日間でした。

今回「タイ株投資実践マニュアル企業情報編 41 社」の共著である石田さん
15 日セミナーを開催していただいた「日本ファイナンシャルアカデミー」小田さん
そのセミナーに参加していただいたカルロスさん、そして 47 名の参加者の方々、
出版社のパンローリングの磯崎さん&社員の方々、
この日本滞在中お時間いただいた
オートトレーディングルフトジャパンの南原社長
フォレスト出版の太田社長
EC 研究会の土屋代表　などなど本当にありがとうございました！

そしてアマゾンキャンペーンに御協力いただいた皆様ありがとうございました。
（こちらを現在お読みになっているあなたかもしれませんが、ありがとうございます！）

4 月 8 日アマゾン総合ランキング 8 位をアピールして
都内を周る予定でしたが、実は書店周りがほとんど出来ずに残念でした・・。

わずかな合間をぬって今後の展開を練っておりました。
実は法人を立ち上げようと考えておりまして、
日本で会社を設立するのか・・それともタイで設立かで悩みつつ
埼玉県の起業支援施設を訪れて書類一式はそろえました。

このあたり次回に詳しく書かせていただきます。

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.
Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

さてそれでは第 13 号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

今号でまぐまぐメールマガジン読者数１４００人突破しました！！！！
凄い数字です。登録していただいた方皆様に感謝でございます。

(こちらのメールマガジンは転送可でございます。御友人や
御知り合いでタイに関心ある方にはどんどんお伝え下さいませ。)

□□　　Ｎｏ１　タイ株初心者編です　　■■

日本では４月に入っても各マネー誌でＢＲＩＣｓやＶＩＳＴＡと言った新興国の
株式特集が頻繁に取り上げられていますね。
タイ以外の国は詳しくないためにわたくしも勉強になります。

ただし皆が集まり始めてしまった株式市場と言うのは実は
難しい局面に入る前兆ですので、ピークになる前に売り抜けるのが正しい選択かと思われます・・。
(この辺りが非常に難しいのですが)

今回のお話は海外投資の魅力について書かせていただきます。

共著した石田さんやセミナーを開催していただいた
日本ファイナンシャルアカデミーの小田さんとの会話でも出ていたのですが、
「海外投資は国内投資と違って、訪問してその経済成長性を感じると共に
文化の違いを楽しんだり、国を応援することにある」

と言うことを話していました。
確かにＢＲＩＣｓ(ブラジル、ロシア、インド、チャイナ)では成長性もあり、魅力的なのですが、
一方で、タイやベトナムを訪れて『昔の日本のようだ！』と思われたり、
『これは今後伸びそうだ！』『住んでみて楽しい国だ』と言う感覚で少額応援するスタンスでも
良いかなと思われます。

『ちょっとこの国は寒くて住めないな・・・・・』だったり
『ちょっと日本人が嫌われてる国に投資したくないな・・・』
と言うのだと大事なお金を預けたくないというのが管理人の本音であります。

結論を言うと
『楽しさ』＋『投資』＋『旅行』＋『応援』を兼ね備えた国に
投資できればベストではないでしょうか。

いままではただ単に『旅行を楽しむ』と言うスタンスだったのが
その国の経済まで学んでみることで一気に視野が広がりますし、旅行する際の
通貨レートにも将来どう動いて行きそうか学べることになります。

もちろん投資した後に株価が下がってしまっては元も子もないので、

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.
Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

株価がすでに上昇してしまっているところは慎重に投資していただきたいですが・・・。

管理人のコメント：
タイのおもしろさの一つに３大お祭り行事があります。
セミナーでも少し御説明しましたが
「ソンクラーン」「ロイカトーン」「スリン象祭り」
だそうです。(諸説あるようですが)

その中でも４月のタイの旧正月に行われる水掛祭り『ソンクラーン』は
タイの全土において老若男女が水浸しになる無礼講のようなお祭りです。

あるものはおもちゃの水鉄砲を。
あるものはどこから持ってきたのか業務用の放水ホースで。
あるものはドラム缶に数十リットルの水を蓄えて。

もう朝から晩まで水を掛け合います。
特にバンコクではカオサン通りと言う場所で乱痴気騒ぎのような無法状態になりますので、
日本人が行くと、引いてしまうくらいバシャバシャ掛け合っています。

ちなみに管理人は１日目でショックを受けて２日目からは引き篭もり生活に入りました。

□□　　Ｎｏ２　タイ株上級者編です　　■■
過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●●　０１３　ＩＴＤ　です。○○
タイの大手ゼネコンです。

日本では談合などと騒がれているゼネコン業界ですが、
タイではその前に欠陥工事の発覚の連続で株価を下げております。

第３号でこのようなお話をしていました。
＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞
新空港スワナプームはバンコクから
クルマでおよそ１時間で到着できます。旧空港ドンムアンでは２車線しかない
連絡路で渋滞が発生しやすく、遅れて行くと不安なこともあったのですが、
今回の新空港へのアクセスは何通りもあり、通路も４車線と倍増して
ほとんど渋滞もなかったです。

この新空港を建設したのは
ITD(イタルタイ)。今回の建設では竹中工務店、大林組との JV
(ジョイントベンチャー)でした。
新空港の周囲には AOT(エアポート・オブ・タイランド)と
飛行機の燃料を調達する会社の BAFS（バンコク・アビエーション・フューエル）

のビルもありました。
あ、もちろん THAI(タイ国際航空)のビルもあります。
すべて SET の上場企業となっております。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞
この空港で滑走路に出来たばかりの空港なのに
ひび割れが発生してしまい、旧国際空港である、ドンムアン空港に一部
国内線業務を移すという事態にまで進みました。

イタリアンタイ・デベロップメント(ＩＴＤ)は
タイ国で最大のゼネコン企業です。
タイとイタリアでの合弁として設立されました。
民間の大手総合建設会社で
タイ政府からのインフラの受注も多いです。
受注案件で代表的なものでも港、ダム、道路、鉄道、パイプライン敷設、発電所など多数を手がけます。
工業団地建設や大規模ビルの建設を得意としていてます。
台湾のスカイトレイン、ラオスのダム建設、ミャンマーの炭鉱、
フィリピンの橋梁建設事業、インドの高速道路など世界的な建設事業を手掛けています。

０６年の７月にはスクンビット延伸の建設工事を
請け負うことが決定し、スクンビットのソイ８５から１０７までの建設工事がすでに始まっています。
かなり現在も渋滞しておりますがこちらが完成するとまたタイのビジネスマンの通勤が楽になるでしょうね。
(それでも見栄っ張りなタイ人は自動車通勤する人も多いそうです)
こちらは２００８年に完成予定だそうです。

タイ国内ゼネコン最大手のイタリアンタイ・デベロップメント（ＩＴＤ）
は２００６年度の売上高が０５年比４．８％増の４０５億バーツ。
最終赤字２１．４億バーツと言う数字でした。
２００５年は３９１億バーツの売上で１２．６億バーツの黒字決算でした。
　０６年度では、海外インフラ事業のインドのダム建設工事や
タイ国内でのバンコク郊外の自動車道路・高架橋建設費用などで
建設コスト費用が増加したことが挙げれます。
そしてＩＴＤの大きな話題として０６年年末に発覚してしまった
新空港のひび割れ問題でも株価を下げた０６年度でした。
０７年度は高架モノレール（ＢＴＳ）延伸事業、郊外の中規模インフラ建設事業、
などが控えています。
海外受注と共に国内の火力発電建設、日本の建機競売会社との提携など
積極的に業務の拡大をしています。

□□　　Ｎｏ３　タイ国内ニュース編です　　■■

上記でソンクラーンの記事を書きましたが、このソンクラーンは

タイではもっとも交通事故でお亡くなりになる人が多い季節となります。

羽目を外して飲酒運転、そして事故。ふざけ合いからケンカとなり発砲。
(何故に発砲か良く分かりませんが・・)

ちなみに今年２００７年は３６１人の方が無くなったそうです。
お祭り騒ぎも考えものです・・・。

もう一つはまじめな話で『外国人事業法改正案』が現在立法議会で
審議されようとしています。
いままでの外国資本が５１％あれば議決権はそれほど問題視されていませんでしたが、
今後はタイ人側の議決権をも５１％必要とする形となり、
多くの日米企業などに影響が出ることは必至です。

現政権はどうやら外国資本を敵視していますが、円借款などは必要とするという
矛盾した行為に走っています。ですので、少し今月、来月株価の動向(特に外資資本の多い企業)
には注意が必要です。
ＳＨＩＮ関連株やＳＣＣＣなども含まれます。

□□　　Ｎｏ４　追伸です　　■■

日本にてタイ株セミナー４月１５日(日)が開催されました。
正直な話大変緊張しました。
ほとんどの方が年配のかたでしたし、うまく伝えられたものかどうかも含めまして
緊張の連続でした。

しかし
セミナー終了後も数多くの方と名刺交換、そして御質問をいただきまして、
たいへん嬉しかったです。
やはりタイ株投資上級者の方と初心者の方と混在していたために、なかなか
難しいものがありましたが、是非次回もチャンスがあれば再び開催したいと考えております。

重ねて日本ファイナンシャルアカデミー小田様
そして当日参加された皆様に感謝の言葉をこの場を借りてお伝えしたいと思います。
『本当に有難うございました！！』

なお、時間が無く御質問できなかったみなさまも
今回参加しました〇〇ですとおっしゃっていただければ必ず御返事しますので
御連絡いただければ幸いでございます。

最後に、東京では残念ながらすでに桜はほとんど散っていて
お花見はできませんでしたが０７年度の初の日本は良い経験が出来ました。

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.
Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

有難うございます。

最後までお読みいただき、ありがとうございます！

●注意事項です
１：わたくしのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。
２：タイの情報については細心の注意を払っておりますが、その内容に相違が発生する場合もあり、保証するものではありません。
３：タイの株式売買決定は自己責任でお願い致します。

□□□□□□□□□□□□□■■■■■■■■■■■■■□□□□□□□□□□□□
メールマガジン　『日本人の９８％は知らないタイ株投資！』

発行責任者：　TOSHIYUKI　ABE
※公式サイトはこちら　→　http://toatoa.jugem.jp/
Copyright (c) 2003-2007 Toshiyuki　Abe. All rights reserved.
□□□□□□□□□□□□□■■■■■■■■■■■■■□□□□□□□□□□□□